

令和2年第2回（3月）定例会 一般質問

議員名：稲垣 茂行

質問事項1：【市政運営】「まちづくり」に対する基本的姿勢・手法について

質問要旨：

「中原市政」6年目を迎えます。

市長就任時の熱い「期待」は、戸惑いから不安へ、そして今、失望から危機的状況へと変わっています。中原市長の「まちづくり」に対する基本的姿勢・手法は、市民不在、議会軽視の「独断先行」が目立つ行政運営だと感じます。吉川市の将来について、心配を抱かずにはられません。

議会ではこれまでの5年間、市の政策や事業について、多角的に検討するとともに提言・提案を行って参りました。「おあしす改修計画・は一とふるぽっと跡の利活用」、「旧庁舎の解体と杭抜き」、吉川美南東口開発「保留地処分計画・ガラ混入搬入土・事業用地の一部売却」、また「志教育の導入」、「演劇の旗手事業化」等ですが、市長は市民、議会の声に耳を傾けることなく進めてきました。

さらに、自身のリーフレットやSNSで議員の個人名を挙げて、悪意に満ちた誹謗中傷の侮辱的発信を行いました。先の市議会議員選挙を意識した行動と考えられますが、選挙結果は自民5・市民の会4・公明3・共産3・未来会議3・無所属2の議会構成となりました。必ずしも市長が描く形にはならなかったと思います。

そこで、改めて市長の現状認識と今後の市政運営（まちづくり）についての基本的考え方について質問いたします。

- 1 先の市議会議員選挙の結果をどう受け止めたのか。
- 2 二元代表制をどう理解されているのか。今後、「議会」とどう向き合っていくのか。
- 3 市民参画、意見の収集、情報の提供、協働についての考えは。
- 4 職員の「育成」と組織の「活性化」をどう進めていくのか。
- 5 市長の役割とリーダーシップについての認識。これまでを振り返り、ご自身をどのように評価されているのか。

答弁を求める者：市長

令和2年第2回(2月)定例会 一般質問

担当:政策室秘書担当 内線2247

議員名:稲垣 茂行

質問事項:【市政運営】「まちづくり」に対する基本的姿勢・手法について

質問要旨:「中原市政」6年目を迎えます。

市長就任時の熱い「期待」は、戸惑いから不安へ、そして今、失望から危機的状況へと変わっています。

中原市長の「まちづくり」に対する基本的姿勢・手法は、市民不在、議会軽視の「独断先行」が目立つ行政運営だと感じます。

吉川市の将来について、心配を抱かずにはられません。

議会ではこれまでの5年間、市の政策や事業について、多角的に検討するとともに提言・提案を行ってまいりました。

「おあしす改修計画・は一とふるぽっと跡の利活用」「旧庁舎の解体と杭抜き」、吉川美南東口開発「保留地処分計画・ガラ混入搬入土・事業用地の一部売却」、また「志教育の導入」、「演劇の旗手事業化」等ですが、市長は市民、議会の声に耳を傾けることなく進めてきました。

さらに、自身のリーフレットやSNSで議員の個人名を挙げて、悪意に満ちた誹謗中傷の侮辱的発信を行いました。

先の市議会議員選挙を意識した行動と考えられますが、選挙結果は自民5・市民の会4・公明3・共産3・未来会議3・無所属2の議員構成となりました。

必ずしも市長が描く形にならなかったと思います。

そこで、改めて市長の現状認識と今後の市政運営(まちづくり)についての基本的考え方について質問いたします。

- 1 先の市議会議員選挙の結果をどう受け止めたのか。
- 2 二元代表制をどう理解されているのか。今後、「議会」とどう向き合っていくのか。
- 3 市民参画、意見の収集、情報の提供、協働についての考えは。
- 4 職員の「育成」と組織の「活性化」をどう進めて行くのか。
- 5 市長の役割とリーダーシップについての認識。これまでを振り返り、ご自身をどのように評価されているのか。

口 述 案：

「【市政運営】「まちづくり」に対する基本的姿勢・手法について」のうち1番目の「先の市議会議員選挙の結果をどう受け止めたのか」についてでございますが、有権者の皆さまが選んだ選挙の結果に対し、私が何か言う立場にないと考えます。議員として市民の負託に応え当市の発展にご尽力いただくことを期待します。

次に、2番目の「二元代表制をどう理解されているのか。今後「議会」とどう向き合っていくのか」についてでございますが、今後も、二元代表制の趣旨を踏まえ、議員の皆さまと実りある議論を行い、価値ある未来を目指してまいります。

次に、4番目の「職員の育成と組織の活性化」についてでございますが、吉川市人材育成基本方針に基づく計画的な職員研修の実施をはじめ、国や県をはじめとする他団体との人事交流や、民間経験者やスポーツ枠などの採用試験を導入し、幅広い人材確保に努めるとともに、適宜、組織の見直しを図り、活力あふれる行政運営に努めてまいります。

次に、5番目の「市長の役割とリーダーシップについての認識。自身の評価」についてでございますが、市民と行政の「共働」を踏まえた上で、責任と矜持を持って政策を決断し実行することが、市のリーダーたる市長の役割であると考えております。

そうした中、市長就任以来、「価値ある未来を共に」を理念に市民の皆さまと共働で「市民一人ひとりの幸福実感の向上」と「次世代のための持続可能な社会づくり」に全力で取り組んできたとの思いがあります。評価につきましては、市民の皆さまにお任せしたいと思っております。

令和2年第2回（3月）定例会 一般質問

担当：市民生活部市民参加推進課 内線2045

議員名：稲垣 茂行

質問事項：【市政運営】「まちづくり」に対する基本的姿勢・手法について

質問要旨：「中原市政」6年目を迎えます。市長就任時の熱い「期待」は、戸惑いから不安へ、そして今、失望から危機的状況へと変わっています。

中原市長の「まちづくり」に対する基本的姿勢・手法は、市民不在、議会軽視の「独断先行」が目立つ行政運営だと感じます。

吉川市の将来について、心配を抱かずにはられません。

議会ではこれまでの5年間、市の政策や事業について、多角的に検討するとともに提言・提案を行って参りました。

「おあしす改修計画・は一とふるぼつと跡の利活用」、「旧庁舎の解体と杭抜き」、吉川美南東口開発「保留地処分計画・ガラ混入搬入土・事業用地の一部売却」、また「志教育の導入」、「演劇の旗手事業化」等ですが、市長は市民、議会の声に耳を傾けることなく進めてきました。

さらに、自身のリーフレットやSNSで議員の個人名を挙げて、悪意に満ちた誹謗中傷の侮辱的発信を行いました。

先の市議会議員選挙を意識した行動と考えられますが、選挙結果は自民5・市民の会4・公明3・共産3・未来会議3・無所属2の議会構成となりました。

必ずしも市長が描く形にはならなかったと思います。

そこで、改めて市長の現状認識と今後の市政運営（まちづくり）についての基本的考え方について質問いたします。

- 1 先の市議会議員選挙の結果をどう受け止めたのか。
- 2 二元代表制をどう理解されているのか。今後、「議会」とどう向き合っていくのか。
- 3 市民参画、意見の収集、情報の提供、協働についての考えは。
- 4 職員の「育成」と組織の「活性化」をどう進めていくのか。
- 5 市長の役割とリーダーシップについての認識。これまでを振り返り、ご自身をどのよう
うに評価されているのか。

口 述 案 :

3番目の「市民参画、意見の収集、情報の提供、協働について」でございますが、市では、これまで、市民参画条例に基づき、対象となる案件の目的や事業の性質により、それぞれ工夫を講じ、適切なタイミングに様々な手段を用いて情報の提供や意見の収集を行い、市民参画、協働によるまちづくりを進めてきたところでございます。

今後も引き続き、より多くの市民の皆さんのご意見に耳を傾け、施策・市政運営に反映できるよう推進してまいります。